

【消費生活アドバイザー 一次試験対策問題集】

1 時間目（生活基礎知識）



消費生活アドバイザー資格試験一次対策問題集について

● 問題集の構成と使い方

この問題集では、奇数ページに問題、その裏にあたる偶数ページに解答を掲載しています。問題文を読んでその正誤を判定、次ページで答え合わせをしてください。

正誤判定の際にはできるだけ「どの部分が誤りか」まで特定してから解答を読むようにし、正解不正解を気にするのではなく、正確に誤っている部分を指摘できたかどうかをチェックするようにしましょう。

本番の試験では「まぐれあたり」も実力のうち。しかし、練習段階では「得点」よりも解答の過程を重視する必要があります。

正誤チェックのみならず、問題文・解答欄に書かれている全ての情報を身につける覚悟で、何度でも繰り返してください。

● 問題集の特徴

この問題集は消費生活アドバイザー試験で学習する各科目の基本事項を中心にまとめ、一年たてば情報が古くなってしまふ時事的な事項は極力載せないようにしています。

単元に出てくる各法律については発行月時点での内容になっています。

時事的な知識を中心にした問題は、

- ・一次試験問題集時事編（毎年8月頃発行）

全範囲の復習には

- ・要点まとめ

をご利用ください。

● 問題集は、1時限目（生活基礎知識）・2時限目（消費者問題・行政知識・法律知識）・3時限目（経済一般・統計・企業経営・生活経済・環境）、時事編があります。

● 消費生活アドバイザー試験本番の出題形式

問題の形式は大きく分けて、択二形式と穴埋め形式があります。

択二形式は、5つの文章が挙げられ、その中から正しい文章または誤っている文章を2つ選びます。1つ正解で5点、2つ正解で10点となります。

穴埋め形式は、1つの文章に5箇所（稀に10箇所）空欄が設けられ、そこにあてはまる解答を語群から選択します。1つ正解で2点、5つ正解で10点となります。

本番では択二と穴埋めを中心に、全部で55問の問題が出題されます。

● 第1時限編の構成

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| (1) ～ (30) 衣生活 | (161) ～ (190) 商品サービス |
| (31) ～ (60) 食生活 | (191) ～ (220) 情報 |
| (61) ～ (90) 住生活 | (221) ～ (250) 広告と表示 |
| (91) ～ (120) 医療 | |
| (121) ～ (150) 社会保険と福祉 | |
| (151) ～ (160) 余暇 | |

- (1) 衣服の保温性は空気の保持量で決まり、含気率の高い布地ほど冬物衣料に適するとされる。
- (2) 公定水分率は一般に合成繊維ほど高く天然繊維ほど低い傾向にある。
- (3) 吸水性とは不感蒸泄などを吸収する性能で、一般に合成繊維や半合成繊維では低く、天然繊維や再生繊維で高い傾向がある。
- (4) 一般にパンティストッキングの衣服圧は大腿部を小さく、足首部を大きくしたものが快適であるとされる。
- (5) 染色堅ろう度は JIS 規定により光に対して 8 段階、洗濯や摩擦、水に対して 5 段階に分類され、いずれも 1 級が最も堅牢性が高い。
- (6) 一般にセルロース系繊維は親水性繊維、合成繊維は疎水性繊維であると言える。前者では綿、麻、レーヨン、アセテートなどがあり、後者にはポリエステルやアクリルがある。
- (7) 羊毛は表面がスケールで覆われクrimpという細かい縮れを持ち、保温性、吸湿性、弾力性に富むが、熱や圧力によりフェルト化する特徴を持つ。
- (8) ポリエステルは合成繊維の中では比較的吸湿性が大きく、その熱可塑性を利用して伸縮加工したウーリー加工糸はストッキングやランジェリーに用いられる。
- (9) リヨセルはパルプを特殊な溶剤で溶解してつくる再生繊維で、繊維の断面が円形で強度が高く、湿潤時の収縮や強度の低下が少ない。家庭用品品質表示法の組成表示では「指定外繊維（リヨセル）」と表示する。
- (10) 炭素繊維は耐摩耗性や耐熱性に優れ、軽量な点にメリットがあり、航空機やロケット、自動車、スポーツ用品などに使用される。一方炭素繊維の短所としては、コストが高い点、リサイクルが困難な点が挙げられる。

(1) ○：水の熱伝導率は大きく、空気の2.3倍あります。熱伝導率が小さい空気を多く含むワタや羽毛などは保温性が高く、冬物衣料に適した素材と言えます。主な繊維の熱伝導率は、羊毛、ナイロン、絹、綿、レーヨン、麻の順に大きくなり、大きいものほど夏物に適しています。

(2) ×：平均的な気温・湿度の際の繊維の重量に対する水分の割合を公定水分率といいます。主な繊維の公定水分率は毛15%、絹および麻12%、綿8.5%、ナイロン4.5%、ポリエステル0.4%となっており、天然繊維ほど高く合成繊維は低い傾向があります。

(3) ×：問題文は吸水性ではなく吸湿性の説明です。吸湿性が水蒸気など気体の水分を吸収する性質であるのに対して吸水性は汗など液体の水分を吸収する性質です。不感蒸泄とは皮膚の表面から蒸発する水分を言い、汗とは区別します。

(4) ○：衣服圧とは服地が伸びるときに皮膚を圧迫する力のことで、衣服圧が大きいほど圧迫する力が大きくなります。皮膚の伸び＝ゆとり＋ずれ＋服地の伸びという関係があるため身体にフィットする衣服ほど服地の伸びが必要ということにもなります。一方衣服圧が大きすぎると血行不良などの原因になる場合もあります。

(5) ×：染色堅ろう度には、光（1～8級）と洗濯・摩擦・水（1～5級）の二種類があります。いずれも級数が大きいほど色落ちや変色が少ないことを表します。

(6) ○：綿、麻、レーヨン、キュプラ、アセテートなどのセルロース系繊維は吸湿性に富み、親水性繊維に分類できます。一方、ナイロンやポリエステル、アクリルなどの合成繊維は吸湿性が小さく静電気が起きやすい性質があります。

(7) ○：この性質を利用して獣毛などの毛織物を圧縮してフェルトを作ります。ちなみに羊毛は撥水性があるため、吸湿性は高くても吸水性は低いことに注意が必要です。

(8) ×：問題文の説明はポリエステルではなくナイロンの説明です。一般に天然繊維や再生繊維に比べて吸湿性に劣る合成繊維の中で、ナイロンは比較的吸湿性が優れています。このためストッキングなど肌に密着する衣類の素材にも適しています。

(9) ○：リヨセルはセルロース繊維で、天然繊維です。レーヨン同様木材パルプを原料としますが製造工程が異なり溶剤も回収して再利用する地球に優しい繊維です。家庭用品品質表示法の分類上では「指定外繊維」となり、表示は問題文の通りとなります。

(10) ○：炭素繊維は炭素だけでできている繊維で、PAN系、ピッチ系、レーヨン系に分類されます。高性能で軽い素材であるため航空宇宙や産業分野の構造材料、スポーツ・レジャー分野など広範囲な用途に使われています。